

今回は、6月14日（月）から始まった「ケガニの資源密度調査」と、5月7日（金）に行われた網走市立第2中学校の「総合的な学習（野外学習）」について、ご紹介します。

【ケガニの資源密度調査】

この調査は、オホーツク海域におけるケガニの資源水準や資源動向の把握を目的とするもので、網走水試は、雄武町から斜里町までの沖合海域を担当しています。

今年は6月14日（月）から約3週間の予定で、網走支庁管内毛がに漁業対策協議会などの協力のもと、かに箒漁船に水試の職員が乗船して15定線、68定点でケガニを採集し、漁獲尾数や甲長などを調べます。

調査データは来年の許容漁獲量の算定にも利用されるので、漁業関係者は調査結果に注目しています。

最近ではケガニの漁獲量が減少し、4月に協議会から調査研究の相談がきており、水試では、この機会も利用して現場の情報を集め、浜の皆さんと何ができるか考えることにしています。

【総合的な学習「網走の水環境を知る」】

5月7日（金）、網走市内の網走湖と二ツ岩海岸で、網走市立第2中学校の野外学習がありました。

郷土の自然環境に触れ、網走湖及びオホーツク海の水質や生き物について理解を深めることを目的として、当日は中学2年生51名が2班に分かれて、一人一人が湖岸と海岸で水温、pH、塩分濃度などの水質調査や生物採集を行いました。

この日は天候に恵まれ、生徒のみなさんの楽しく取り組む姿が印象的でした。

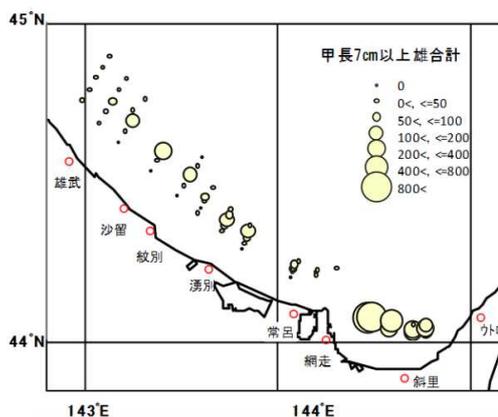
網走水試からは講師、補助スタッフとして、佐々木主任主査、眞野主査、中島専門研究員、田中研究主幹ほか2名が参加しました。 （網走水試 山本 和人）

【資源密度調査の様子】



【2020年資源密度調査】

100かご当たり漁獲尾数分布（甲長7cm以上雄）



【二ツ岩海岸の野外学習の様子】

